

せわやがトカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL 099-227-9771

南北160km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

9月・・・十島ファミリー劇場

十島村教育長 有村 孝一

9月には、台風接近などにより大変心配させられました。被害を受けられたところが早く復旧することを願っています。

さて、教育委員会では、十島ファミリー劇場として、毎年各島に優れた芸能などを届ける事業を展開しています。これは、島民の皆さんがいろいろな文化・芸能に接することにより、地域の文化芸能の掘り起こしや地域文化の高揚と新しい文化の創造を図ることを目的に実施しています。

平成27年度では、口之島、中之島に正調おはら節保存会、平島には「みやまコンセール」からサクソフォン四重奏、悪石島には島唄、小宝島には鹿児島大学演劇部のみなさんに子ども向けの演劇、宝島にはマジックとそれぞれの島の希望に添った形で行ってきました。残念ながら、諏訪之瀬島につきましては、天候不良のため断念せざるを得ませんでした。

このように、たくさんの方に行っていただくということで、その方々のスケジュール等の関係から前年度に島の方から希望をとり、先方との十分な理解の後で、次の年に派遣をするという工夫をしています。まずは、そのことを十分理解していただきたいと思います。

また、出演者の希望については、これまでの方々の考慮して、新たなジャンルの方々の選定も視野に入れながら、いろいろな年代層の方々へ配慮したものとなるようにしていただきたいと思います。

そして、それらを鑑賞しながら、趣旨にもありますように、自分の島の芸能等の伝承活動や新たな芸能の創造にも努めていただきますと大変ありがたいと思います。平成28年度は、これまで悪石島に「み



やまコンセール」の方から声楽、ギター、フルートのアンサンブルを実施していますが、演奏に合わせて一緒に歌ったり、踊ったりして楽しいひとときを過ごすことができました。船が出るときには、「蛍の光」が流れる中、多くの紙テープでたくさんの人に見送っていただき、演奏家たちは感激で涙ぐんでいました。島の方々の心にしみる素晴らしい演奏だったのではないかと思います。

昨年度も平島では、高齢者の皆さんのリクエストに応じて伴奏していただき、みんなで歌ったりしました。このように、次はこんなものを聞いてみたい、見てみたいといろいろな案を出し合いながら、充実したファミリー劇場を皆さんの手で、作り上げていただきたいと思っています。

シリーズ 南日本新聞に投稿
「人種や宗教異なっても働ける国」
悪石島中学校 教諭 鹿倉高行

8月に、ロンドンの語学学校へ短期留学をしてきました。再度、英語の勉強をすることで、自分の教養を深めたいと思ったからです。1週間の短い間でしたが、学んだものはたくさんありました。トルコ、ポーランド、イエメン、コロンビアなど9か国の人たちと同じクラスメイトになりました。

今まで会ったことがない国の人たちと知り合ったことは、大きな刺激となりました。これらの人たちと話すことができる英語の重要性を痛感しました。久しぶりに生徒になったことで、改めて教えることの大切さも考える機会を得ました。

ロンドンには、ビッグベンやロンドンアイなど多くの観光名所がありました。至るところで、白人、黒人が多く働いていました。ヒジャブを着たイスラム教の人たちも多く働いていました。様々な人種、宗教の人たちを普通に受け入れているロンドンの様子が魅了されました。

外国に行くことで、外国の良さを知り、自分の見聞を深めることができました。今は、学校の子どもたちに自分の経験をどう伝えていこうか、いろいろ考えています。子どもたちに、そして自分自身に還元できればと思います。

外国に行くことで、外国の良さを知り、自分の見聞を深めることができました。今は、学校の子どもたちに自分の経験をどう伝えていこうか、いろいろ考えています。子どもたちに、そして自分自身に還元できればと思います。

外国に行くことで、外国の良さを知り、自分の見聞を深めることができました。今は、学校の子どもたちに自分の経験をどう伝えていこうか、いろいろ考えています。子どもたちに、そして自分自身に還元できればと思います。

今年度の県図画作品展には、県全体では約5,000点



第67回鹿児島県図画作品展 十島村立学校から入賞!

今年度の県図画作品展には、県全体では約5,000点

の作品応募があり、その中から606点が入賞しました。十島村から応募した9点のうち、特選が1点、入選が1点ありました。下の入賞作品は、夏休みの8月26日(金)から8月28日(日)まで、鹿児島市の黎明館に展示され、多くの観覧者でにぎわいました。入賞した2点は、対象をよく見つめ、感じ取ったものを上手に表現していました。おめでとうございます。



「しずかな船」 悪石島小3年片野田 菜
「港でのお別れ」 宝島小6年平田一華

シリーズ——島で暮らす 「大切な出会いをくれた島」 中之島中学校3年 大迫 恵

私には男子2人の同級生がいる。中之島に来た時、3年前に出会った同級生だ。先日、恒例となった行事、夕涼み会が行われた。その日は、自由に行動するはずなのに、気がついたら三人、同じテーブルについていた。結局いつもと変わらないではないか、と思いつつもなぜか自然と笑顔になる。気がついたら側にいる、私たち3人はそんな関係だ。

今までは私は、こんなに距離が近くて本当の自分を見せることができる友だちに出会ったことがなかった。仲の良い友だちはいても、どこかで本当の自分を隠していた。でも、あの二人の前では違う。自分が全てを出して、本気で意見も言い合えるし、とりとめない話で笑ってもらえる。だからぶつかってしまうこともよくある。でも、私がいえるのは、この3人じゃないとだめで、一人欠けてもだめで、とにかくこの今の関係が大好きだということだ。

中之島に来たから出会うことができた私たち。ここに来られなかったら、一生出会えなかったかもしれない。中之島に来られたことに感謝したい。最初の頃の不安はもうどこにもない。こんなにかけがえのない友だちが側にいてくれるのだから。

シリーズ——MBCラジオふるさとニュース 「小宝島自慢」 小宝島中学校2年 清水宏太郎

平成28年9月18日(日)の朝7時45分からのふるさとニュース日曜版、小宝島中学校の生徒会長、清水宏太郎君へのインタビューの一部です。

1 まず、小宝島について教えてください。
「小宝島は、トカラ列島の南にある周囲がおよそ4kmのとても小さなさんご礁の島です。約60人くらいが住み、お店はありませんが、週に2便『フェリーとしま』で食料品や生活雑貨が鹿児島から届きます。青

い海に囲まれ、夏にはハイビスカスやアダムの花が咲きます。」

2 では「小宝島小・中学校」を紹介してください。
「昭和5年に宝島尋常小学校小宝島分教場として開校しました。昭和54年から9年間は閉校していましたが、昭和63年に宝島小学校小宝島分校として2名の児童で開校しました。そして、平成28年3月には、分校を廃止して、4月には、新たに児童生徒数14人の小宝島小・中学校として開校しました。」



十島村の小・中学校からのメッセージ 悪石島小・中学校 教頭 川上嘉一

悪石島に赴任して1年半が過ぎようとしている。素直で明るい子どもたち。いつも学校を気にかけて、声をかけてくださる島民の方々。悪石島は、豊かな自然の中、島民たちが助け合いながら生活している素敵な島である。そんな恵まれた環境の中で過ごす時間は、ほんとうにあつという間に過ぎていく気がする。悪石島に赴任が決まった当初、期待と不安で一杯だった。

中学校で勤務してきた私にとって初となる小中併設校。今までにない経験と教育活動ができるのではないかとワクワクする気持ちと、教頭という立場での赴任に対する重責感が心の中で渦巻いていた。そんな私を迎えてくれたのは、笑顔あふれる子どもたち、気遣いあふれる島民たちであった。それからは、日々、学びの連続である。

今までの教員生活の中で、小学校の学びの様子をこんなに間近に見る機会はなく、発達段階に合わせた細やかな指導や児童に対する接し方に驚きとともに感動を覚えた。特に今年度は小学校1年生が3名入学し、見ているだけで癒やされるのだが、過日行われた「秋季運動会」では、中学生と一緒に日程を、へとへとになりながらも、小さな身体で一生懸命こなし、やりきってくれた。その姿を見ながら、改めて子どもたちの持つ可能性・日々の成長について考えさせられた。一教員として、この素晴らしい環境の中で、児童・生徒の成長に関われることを誇りに思い、子どもたちの将来を見据えて教育活動に取り組んでいきたい。いつの日か、子どもたちを、学校を、地域を支えることができるよう、これからも学ぶ姿勢を忘れずに日々過ごしていきたいと考える。

「我以外は皆師匠」の言葉を座右の銘として。

「教職員仲間であるあなた」への

私からのメッセージ

「自分自身が楽しむ・笑える」ことが、一番大切だと思います。今しかできないことが、必ずあるはず。今を楽しみ、学びましょう。それができる環境が十島村にはあります。